

第104回

全国高校野球
青森大会

第10日

第104回全国高校野球選手権青森大会は第10日の20日、弘前市のはるか夢球場で準決勝2試合を行った。第1試合の青森山田（八工大）は、八工大一が敵なしに撃つ3点を先発投手の力投で守り切り、2010年以来12年ぶりの決勝進出。第2試合の聖愛

あす決勝
光星
工大一

（左が一塁側）

八学光星は、2-2の同点で迎えた九回裏、八学光星1死満塁で佐藤が犠飛を放ち、劇的なサヨナラ勝ちを収めた。八工大一が光星学院（現八学光星）を破った10年ぶりの八戸地区同士の対決となる決勝は、22日午後1時、同球場で行われる。（本紙取材班）

光星サヨナラ勝ち

聖愛投手陣 終盤粘れず

【評】八学光星は、1点をリードされて迎えた七回、文元の2点適時二塁打で逆転。同点に追いつかれた九回、1死満塁の好機で佐藤が犠飛を放ち、サヨナラ勝ちした。投げては、宇田、富井、洗平歩の継投で要所を締め、長打力を誇る聖愛打線を散発5安打に抑えた。



【聖愛一八学光星】9回裏、八学光星1死満塁、佐藤の犠飛で三走池上が生還に成功し、サヨナラ勝ちを決める。捕手・工藤天



劇的なサヨナラ勝利を飾り、グラウンド上で喜びを爆発させる八学光星ナイン

仲間の思い乗せ強振

サヨナラ犠飛 光星・佐藤

ハイライト

八学光星は同点で迎えた九回、代打藤原が申告。これまでの3試合で通算敬遠され、1死満塁の好1安打と振るわなかった

佐藤だが、仲間の言葉に背中を押された。スタンドには全校応援とベンチに入らなかった部員の姿。みんなの思いを背負って、とにかく一本が出るように打った。初球、力強く振り抜いた外角スライターは、右方向に高く伸びる。サヨナラ犠飛、劇的勝利の立役者はナインからもみくちゃにされて迎えられる。佐藤は「思うよう結果が出ていなかったが、何とか打ててよかった。うれしい」と安堵（あんど）した表情を見せた。

同じく今大会1安打だった文元は、六回まで無得点の重苦しい空気を逆転の適時二塁打で振り払った。その後追い付かれるも、守備では捕手として外角低めを意識した配球を投手に指示し、失点を最小限に抑えた。

3年ぶりの夏の甲子園まであと1勝。文元は全力疾走で力を抜いてしまったりとか、基礎的な部分にまだ弱みがある。悪かった部分を改善し、隙のない野球で勝ちたい」と気を引き締めた。

（野村暹）